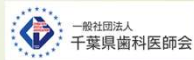


(資料)小児の心身の特性について

小児の心身の特性について

地域保健Ⅱ委員会
金剛寺 高宏



小児の心身の特性について

- 口腔機能発達不全症
- 小児のう蝕について
- 口腔の発育
- 小児特有の全身的疾病

1

2

口腔機能発達不全症



3

口腔機能発達不全症：ロッセ調査（3-12歳のお子様を持つ男女）

【「ロッセ意識調査」調査概要】

- ・ 調査方法：WEBアンケート調査（全国）
- ・ 有効回答数：400名

- ・ 調査対象：3～12歳のお子様を持つ男女
- ・ 調査期間：2022年5月20日（金）～5月23日（月）

約7人に1人の子どもが…



強く噛みしめられず
やわらかいものばかり好んで食べている(16.0%)
▷特に多かったのは9,10歳の子どもで22.5%

食べ物を口に入れてから
なかなか飲み込まない(15.5%)
▷特に多かったのは3,4歳の子どもで22.5%

(N=400)

約10人に1人の子どもが…



滑舌が気になる(11.5%)
特に「カ行・サ行・タ行・ナ行・ラ行」がしっかり書えない
▷特に多かったのは3,4歳の子どもで18.8%

食事の際、片側の歯・顎ばかりで噛んでいる
(11.0%)
▷特に多かったのは9,10歳の子どもで13.8%

(N=400)

4

口腔機能発達不全症の指導 管理

- 詳しくは歯科医学会「口腔機能発達不全症に関する基本的な考え方」を参照願います。
- <https://www.jads.jp/assets/pdf/basic/r06/document-240402-2.pdf>

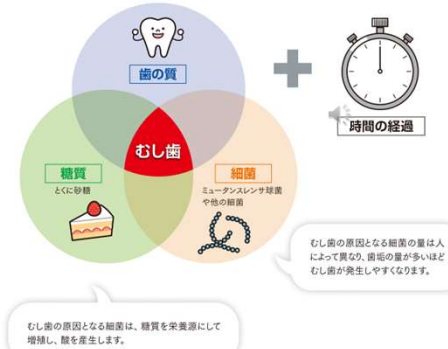


9

4つの発生要因が重なるとむし歯になります

乳歯や生えたての永久歯は歯の質が弱いので、歯質を強くするフッ素の活用が大切です。

口内は常時中性ですが、飲食して3分ほどすると歯が溶ける程度の酸性になります。



小児のう蝕

8020推進財団より

10

病因論からのう蝕予防

ミュータンスレンサ球菌の定着の抑制

- 育児従事者からミュータンスレンサ球菌が伝播することから育児従事者の口腔内のミュータンスレンサ球菌を減らすことが重要
- 育児従事者にう蝕があれば治療を行う。また徹底したブラッシング・フロッシングなど口腔清掃を励行させる

デンタルプラーク形成の抑制

- スクロースの摂取制限、摂取回数を減らす。就寝前は間食は控える

エナメル質脱灰の抑制

- デンタルプラークが形成され、エナメル質が脱灰されてエナメル質の実質欠損が始まる前にデンタルプラークを除去する。
- フッ化物配合歯磨剤の使用やフィッシャーシーラントをう蝕になりやすい小窩裂溝に行う

11

口腔の発育 乳歯の萌出時期

(日本小児歯科学会より)

		男 児		女 児	
		平均 年月	標準偏差 年月	平均 年月	標準偏差 年月
上 顎	A	0.10	0.01	0.10	0.01
	B	0.11	0.01	0.11	0.02
	C	1.06	0.02	1.06	0.02
	D	1.04	0.02	1.04	0.02
	E	2.05	0.04	2.06	0.04
下 顎	A	0.08	0.01	0.09	0.01
	B	1.00	0.02	1.00	0.02
	C	1.07	0.02	1.07	0.02
	D	1.05	0.02	1.05	0.01
	E	2.03	0.03	2.03	0.04

(12歳法、歳、か月)

12

口腔の発育

永久歯萌出時期（2018年）－日本小児歯科学会調べ－

歯種	男子	女子	順序	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
上顎			順序(男子)														
1	7歳2ヵ月	6歳11ヵ月	上顎		1	6									5		7
2	8歳4ヵ月	7歳11ヵ月	下顎	1	6		2			3		4		5		7	
3	11歳0ヵ月	10歳3ヵ月	順序(女子)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
4	10歳4ヵ月	10歳0ヵ月	上顎			1	6	2				4	3	5			7
5	11歳9ヵ月	11歳6ヵ月	下顎	1	6	2					3		4		5	7	
6	7歳3ヵ月	7歳1ヵ月															
7	13歳3ヵ月	13歳0ヵ月															
下顎																	
1	6歳3ヵ月	6歳0ヵ月															
2	7歳3ヵ月	6歳11ヵ月															
3	10歳3ヵ月	9歳6ヵ月															
4	10歳5ヵ月	10歳1ヵ月															
5	11歳8ヵ月	11歳8ヵ月															
6	6歳8ヵ月	6歳3ヵ月															
7	12歳6ヵ月	12歳6ヵ月															

- 男女差について
すべての歯種において女子の方が早く萌出する。
- 左右差について
男子：上顎第二小臼歯に左右差あり。
女子：左右差なし
- 「口腔機能発達不全症」はこれらのデータを基準に歯の萌出の遅れを判断する。平均より1S.D.以上遅れておくと、「遅い」と判断する。

- ・男女差について
すべての歯種において女子の方が早く萌出する。
- ・左右差について
男子：上顎第二小臼歯に左右差あり。
女子：左右差なし
- ・「口腔機能発達不全症」はこれらのデータを基準に歯の萌出の遅れを考える。平均より1S.D.以上遅れていると、「遅い」と判断する。

1歳6か月児健診のチェックポイント

見ておきたいこと

- 母乳、哺乳瓶の継続状況
- 歯の生え方、数
- 上顎前歯のう蝕の有無
- 歯磨きの状況

口の機能の見方

- 前歯を使って食べ物のかじり取りができているか
- 奥歯での咀嚼（噛みつぶし）ができるか
- 口を閉じて鼻呼吸ができているか
- 意味のある言葉（1語文）の発語がみられるか

13

14

3歳児健診のチェックポイント

見ておきたいこと

- 食事・間食のリズム
- 指しゃぶり、おしゃぶりの継続状況
- 歯磨き、仕上げ磨きの習慣
- 歯並び・咬み合わせ
- 上唇小帯・舌小帯

口の機能の見方

- 前歯で噛み切ったり、奥歯ですりつぶすという歯を使った咀嚼ができているか
- 食具を使った食べ物の取り込みや、一口量の調節ができる
- 溜める、丸飲みなど食べ方の問題がないか
- 口を閉じて鼻呼吸ができているか
- 発音が明瞭になっているか

口から気が付く小児の異常

- 低ホスファターゼ症
- X連鎖性低リン血症性くる病
- 鎖骨頭蓋骨異形成症
- 外胚葉異形成症

15

16

低ホスファターゼ症（指定難病172）

- 低ホスファターゼ症は、骨の低石灰化、くる病様変化、骨変形などを認め、血清アルカリホスファターゼ（ALP）値の低下を特徴とする骨系統疾患である。乳歯早期脱落などの歯科症状やけいれんを認める場合もある。

主症状

1. 骨石灰化障害

骨単純X線所見として骨の低石灰化、長管骨の変形、くる病様の骨幹端不整像

2. 乳歯の早期脱落（4歳未満の脱落）

主検査所見

- 血清アルカリホスファターゼ（ALP）値が低い（年齢別の正常値に注意）

小児特有の全身疾患

- | | |
|--------------|--------------|
| ■ 無汗型外胚葉異形成症 | ■ 風疹 |
| ■ 骨形成不全症 | ■ 流行性耳下腺炎 |
| ■ 鎖骨頭蓋骨異形成症 | ■ ウイルス性肝炎 |
| ■ 先天性表皮水疱症 | ■ 後天性免疫不全症候群 |
| ■ Down症候群 | ■ 貧血 |
| ■ 手足口病 | ■ 血友病 |
| ■ 水痘 | ■ 白血病 |
| ■ 麻疹 | ■ 血小板減少性紫斑病 |
| | ■ 糖尿病 |
| | ■ ネフローゼ症候群 |

17

18



ご清聴ありがとうございました

19